

岐阜県経済の現状



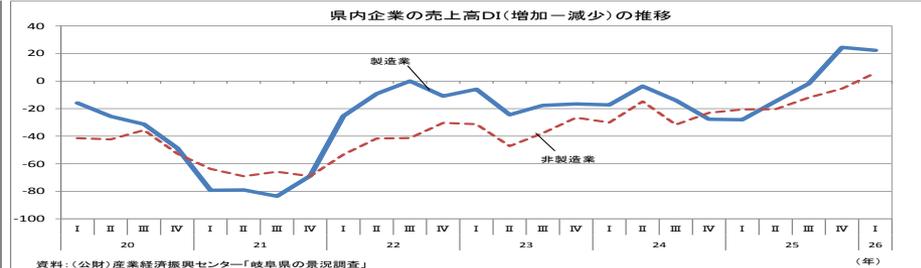
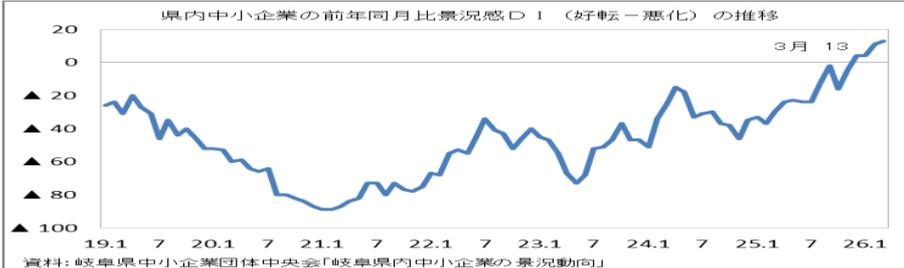
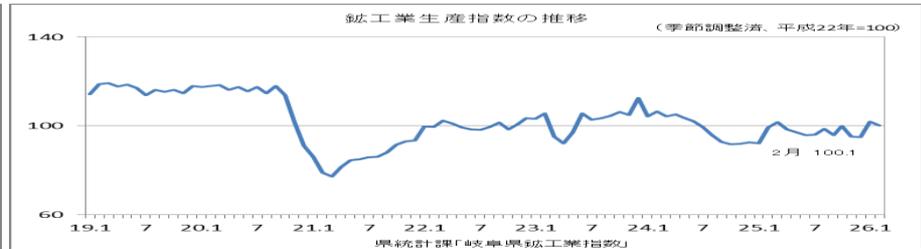
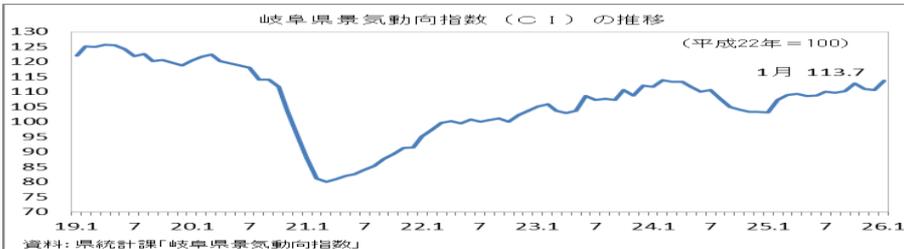
平成26年4月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは4月23日～25日を中心に実施し、5月12日に作成。

景気動向・製造業

○1月の景気動向指数(CI、一致指数)は113.7と前月より3.1ポイント上昇。県内中小企業の3月の景況感プラス13であった。

○2月の鉱工業生産指数は、1.8ポイント減の100.1となった。製造業及び非製造業の売上高は増加。



現場の動き

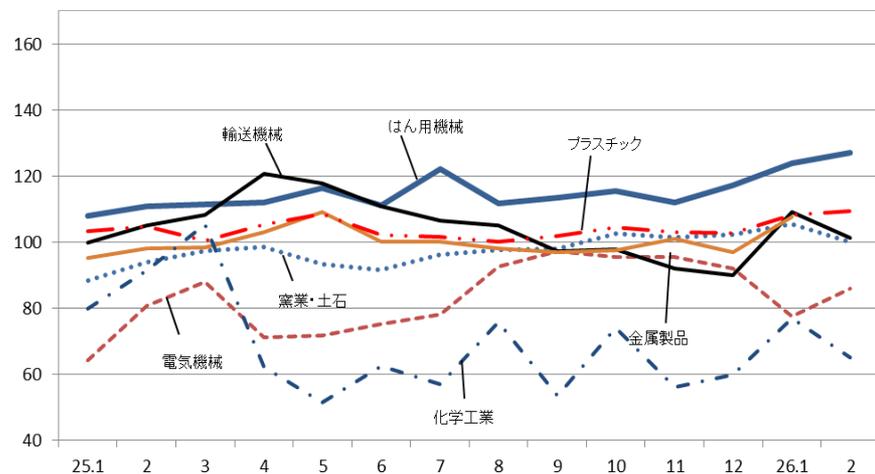
- ◆4月は安定している。3月比で全体としての受注量は減っているが、工具部門の受注増により、減収増益となっている。工具部門の受注増は値上げ通知による影響が大きいと考えられ、その反動も予想される。
- ◆消費増税前の3ヶ月平均に対し、増税後の3ヶ月平均の1日あたりの受注は7.6%減少。7月以降の早期回復を期待している。(以上、輸送用機械)
- ◆受注が多く忙しい。年度が明けても、受注が多い。(生産用機械)
- ◆3月の駆け込み需要の反動で、やや売上、受注とも減少している。(はん用機械)
- ◆4月の出荷量は対前月で横ばいの状況であるが、想定していたよりも好調である。(金属製品)
- ◆4月の売上は前年を若干上回る予想。消費税引き上げに伴う反動の影響は軽微と思われる。
- ◆売上は前月比15%減。4月途中の実績でほぼ見込み通りの推移。ただ、3月は駆け込み需要により増加していたので4月以降の水準は例年並みと言える。(以上、プラスチック)

製造業-2(業種別)

○2月の生産指数は、電気機械、はん用機械、プラスチックが上昇したものの、輸送機械、化学工業、窯業・土石、金属製品は減少した。

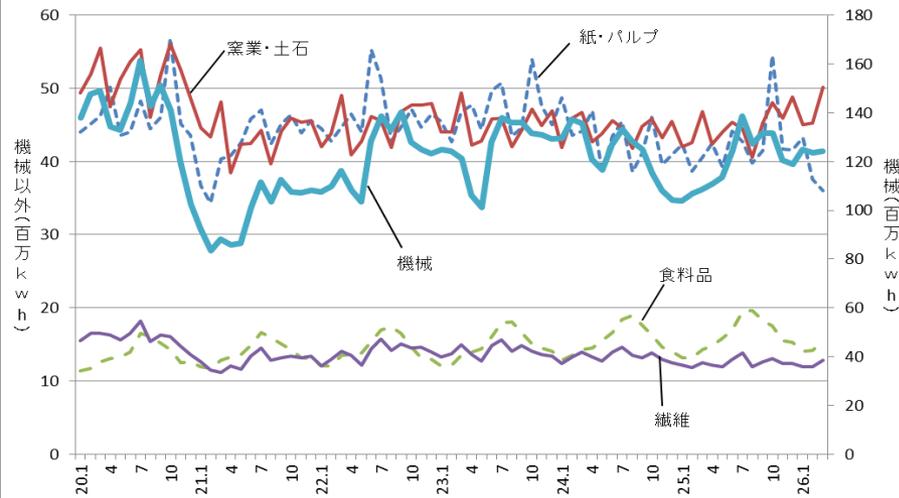
○3月の工場向け電力販売量は、紙・パルプを除くすべての産業で、前年、前月ともに上回った。

主な産業の生産指数 (季節調整済、平成22年=100)



資料: 県統計課「岐阜県工業指数」

業種別 産業用大口電力(契約500kw以上)の販売電力量



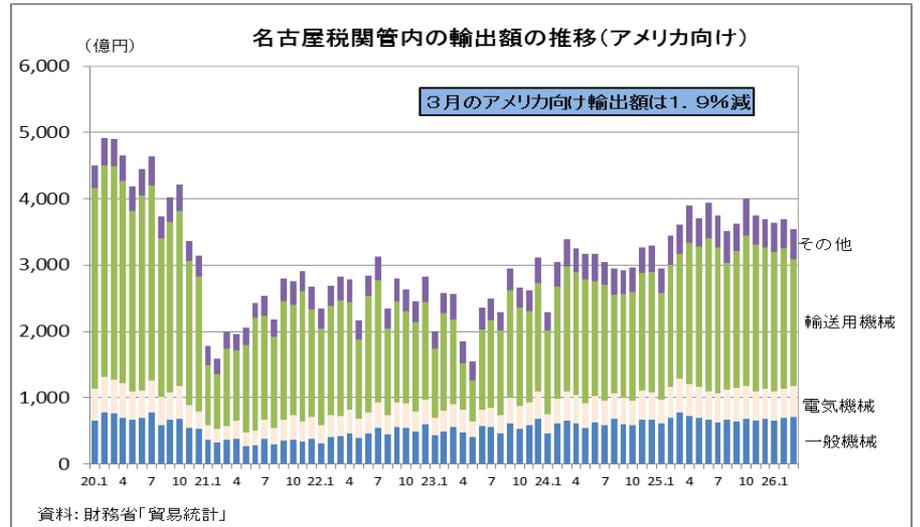
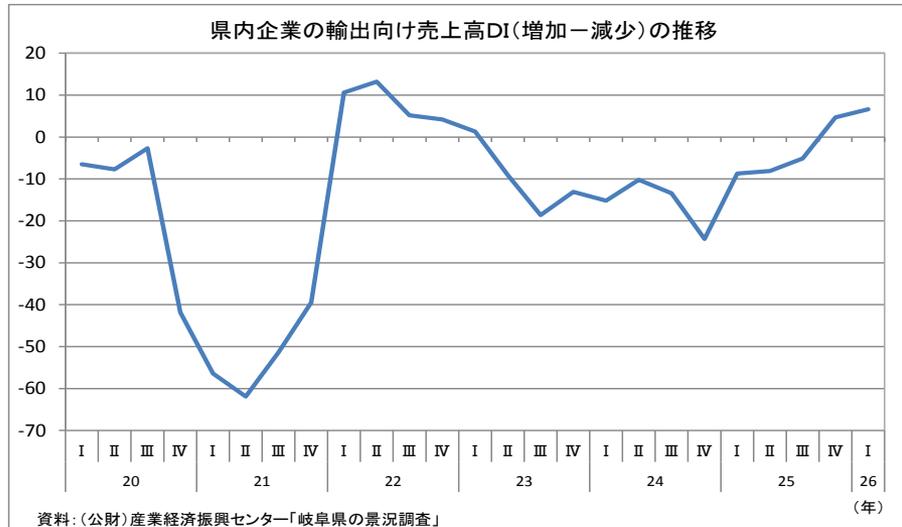
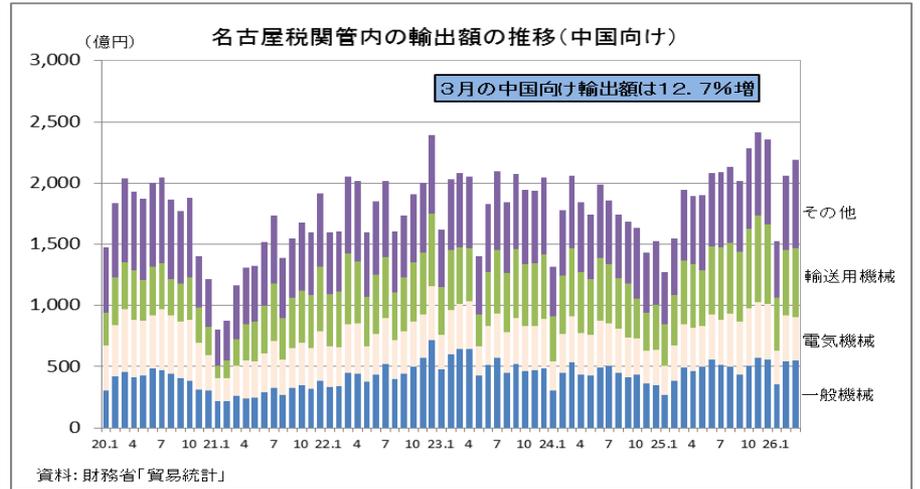
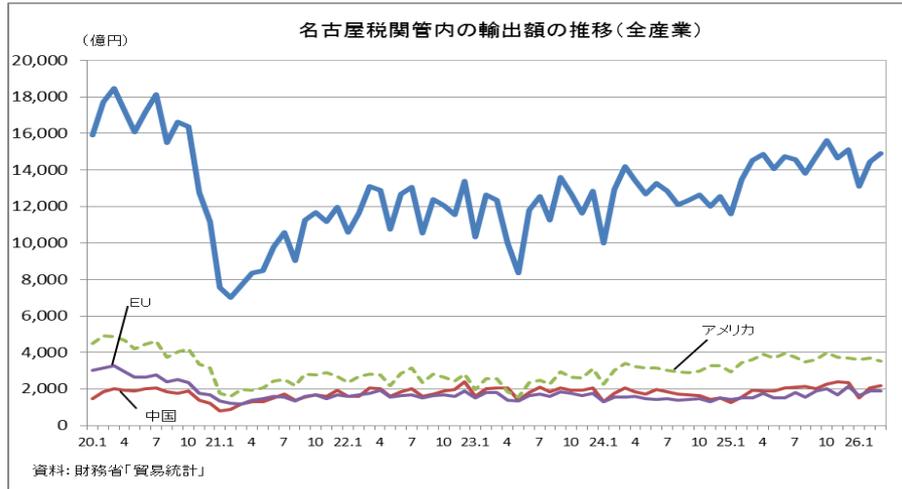
資料: 中部電力提供資料より作成

現場の動き

- ◆消費増税前の駆け込み需要は無く、逆に衣類を買い控え、他の物を買っている印象があり、全体としてはマイナス印象。(アパレル)
- ◆売上、受注とも変わっていない。(陶磁器)
- ◆3月の駆け込み需要、4月の反動もそれほど大きくなかった。(刃物)
- ◆3月の駆け込み需要が大きかった。4月になり落ち込むかと思っていたが、上中旬はそれなりに維持。下旬になり落ち始めており、連休前で伸びるはずが例年ほど伸びていない。(食品加工)
- ◆昨年と比べて大きく下がったというほどではないが、消費増税の影響で3月に駆け込み需要があった。その反動もあり、4月は少し静かだと感じている。(紙)
- ◆3月好調だったが、4月も引き続き好調。(木工)

輸出

- 3月の輸出額(名古屋税関管内)は、14,891億円と前年同月比2.6%増と15ヶ月連続の増加となった。
- 中国向け輸出は電気機器を除く産業が増加したことで前年同月比12.7%増と12ヶ月連続の増加となった。
- アメリカ向け輸出は輸送用機器、乗用車は増加したものの、一般機械、電気機械がともに大きく減少し、前年同月比1.9%減となり、18ヶ月振りに前年を下回った。

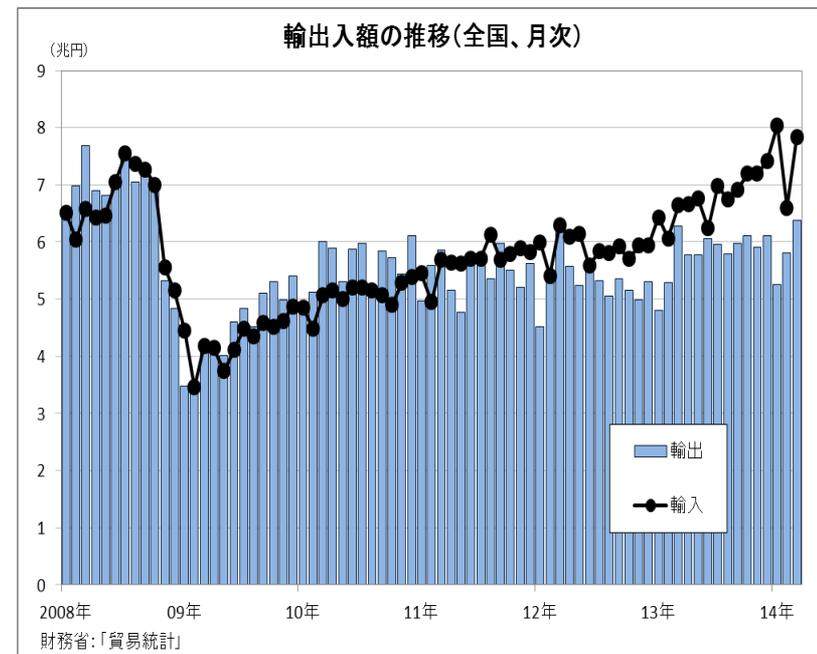


円安・原油高騰による影響について

- ◆為替の影響により、原材料の高騰が利益を圧迫している。販売価格の改定を目論んでいるが進展していない。(食品製造)
- ◆LNG(液化天然ガス)は依然高い状況。為替の影響は燃料の価格高騰と北米を中心とした自動車の輸出が好調であることによる受注増のマイナスとプラスの両面ある。(輸送用機械)
- ◆原料樹脂価格は4月からも上昇しており高止まり状態が続いている。(プラスチック)
- ◆円安の影響により材料高、燃料高がある。特に燃料高が痛い(プロパンガスが80円から110円へ高騰)。(非鉄金属)
- ◆物流コストや円安の影響により、売上は横ばいでも利益が大きく落ち込んでいる。(アパレル)
- ◆原料の土等の輸入原料の価格上昇により利益を圧迫しており、原油高、円安の影響は非常に大きい。(陶磁器)
- ◆原材料の仕入れの面では厳しい状況にある。(刃物)
- ◆原油高は原材料費や製造原価、配送の燃料費の上昇になり厳しい。宅配業者の価格も上昇し、経費も上昇。(食品加工)
- ◆主原料のパルプをカナダからの輸入に頼っているため、原油価格高騰、円安の影響は痛手となっている。(紙)
- ◆円安は102円前後を維持してコスト高が続いている。(木工)
- ◆原油高の影響で、会社経営は厳しい。お客様への転嫁は進めていこうとしているが、なかなか難しい。(運輸)

アベノミクスの効果・影響について

- ◆自動車産業等での従業員募集が増加したため、当社求人の応募が減少したとみられる。(食品製造)
- ◆あまり効果を実感していないが、前政権時よりはよくなっていると感じる。(輸送用機械)
- ◆不透明な部分もあるが、緩やかに回復しているのではと感じている。(電気機械)
- ◆株価が上がり、お客様の財布の紐が緩んだ。(スポーツ用品)
- ◆アベノミクスの効果は感じられない。一部の大企業だけの話で、陶磁器業界は厳しい。(陶磁器)
- ◆アベノミクスの効果は感じられない。(商店街)
- ◆公共工事、自動車関連企業などに波及効果が出てきている。
- ◆大企業ほど売上が増えるなど業況は改善している。中小零細企業は変わっていないか、円安、燃料高によりむしろ悪くなっている企業もある。(以上、金融機関)



4月からの消費税増税の影響・懸念について

【製造業】

- ◆消費税増税の影響はない。(生産用機械・はん用機械・金属製品)
- ◆3月に駆け込み需要が多少あったが、反動は特にはない。(食品製造)
- ◆4月以降の生産量の落ち込みもなく、今後も横ばいで推移していくと見込んでいる。(輸送用機械)
- ◆取引先(自動車)の新車生産は4月以降の消費税増税で販売が減少となり、難しい局面になってきた。(輸送用機械)
- ◆4月の販売量は順調に推移している。消費税増税の反動の影響で国内向けの出荷は減少したが、北米や中国向けの販売は堅調である。(輸送用機械)

【地場産業】

- ◆消費税引き上げによる影響は今のところ感じられない。3月には駆け込み需要はあった。受注は下がると予想していたが、今のところ落ちていない。2, 3, 4月と変わっていない。今後が心配である。(陶磁器)
- ◆消費税増税の駆け込み需要の影響は多少出ている感じはするが、大きな動きはない。(刃物)
- ◆消費税増税については、消費者の方の気持ちに受け入れ態勢があるように感じる。スーパーは単価で比較されてしまい厳しいため、価格競争になると非常に厳しい。(食品加工)

【個人消費】

- ◆売上としては消費税増税の影響があると感じる。食料品は客足も戻ってきていると感じられ、今後についても悲観していない。ただ、住宅関連や化粧品は駆け込み需要の影響もあり、客足や売上も戻っていない。
- ◆3月の駆け込み需要により、4月は高額商品や日用雑貨の売上が落ち込んだ。(以上、大型小売店)
- ◆3月はトイレtpーパー等の日用品、冷凍肉等の日持ち食品が売れたが、4月はその反動があった。(食料品店)
- ◆貨物量は、3月の駆け込み需要により減少している傾向であるが、対前年比では増加している会社とそうでない会社があり、まちまちである。(運輸)
- ◆主力商品のタバコが増税の影響を強く受け、売上が落ちている。食料品の売上には影響を感じない。(コンビニ)

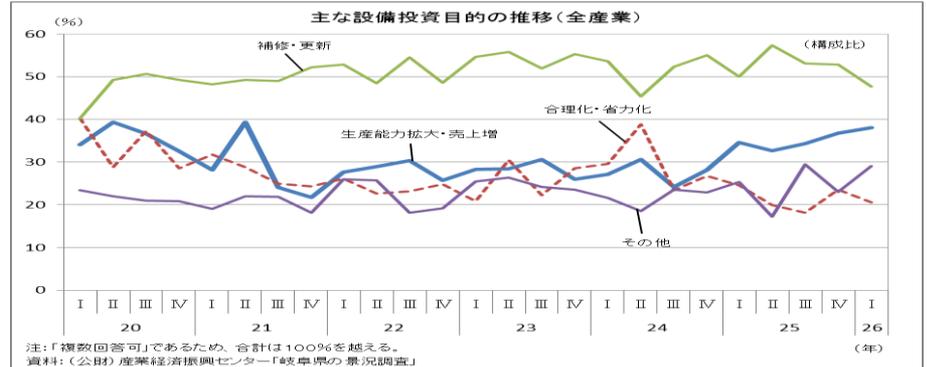
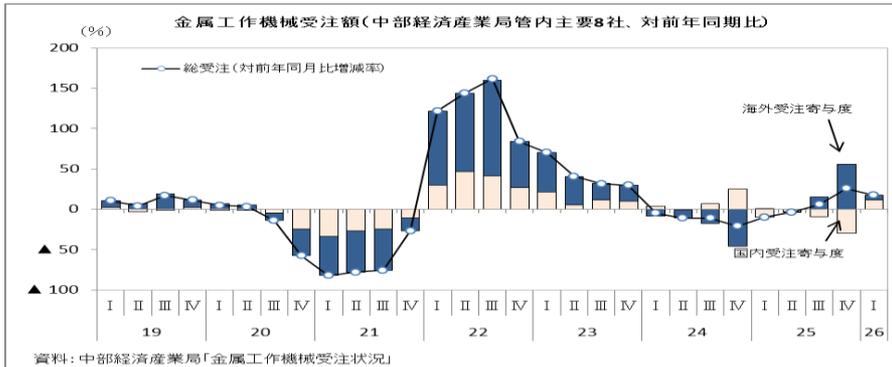
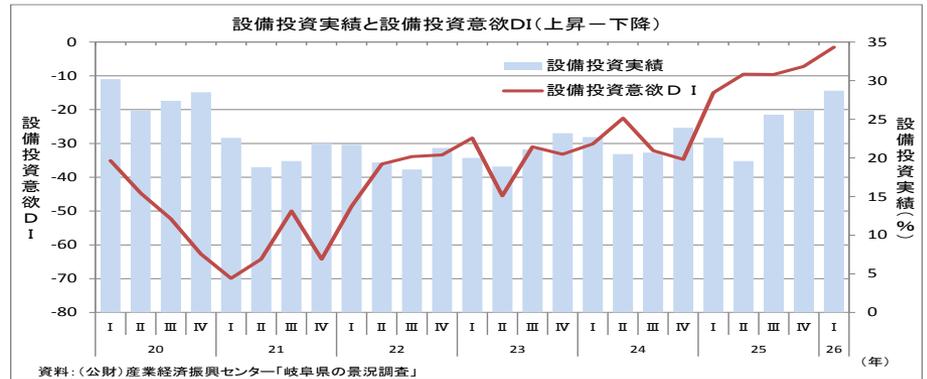
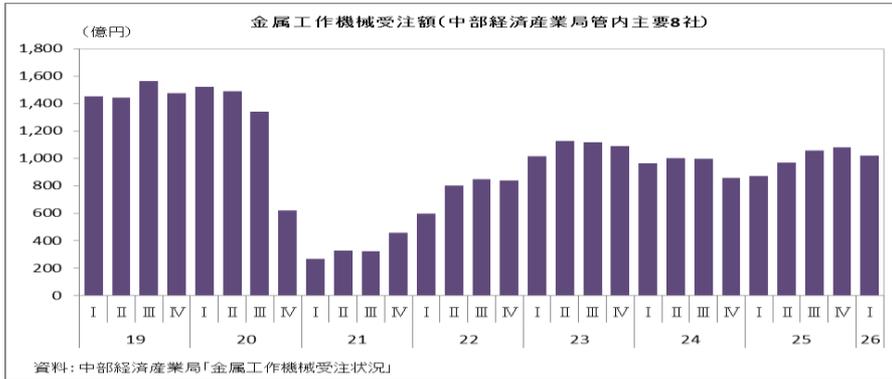
【その他】

- ◆現時点ではまだ影響は出ていない(確認できていない)が、各企業注目している様子。(人材派遣)
- ◆駆け込み需要による反動は見られない。資金需要が減ったということはない。(金融)

設備投資

- 生産用機械の受注額は、海外受注が増加したことで、2期連続でプラスとなった。
- 設備投資意欲DIが改善し、投資実績も増加。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が減少し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加している。



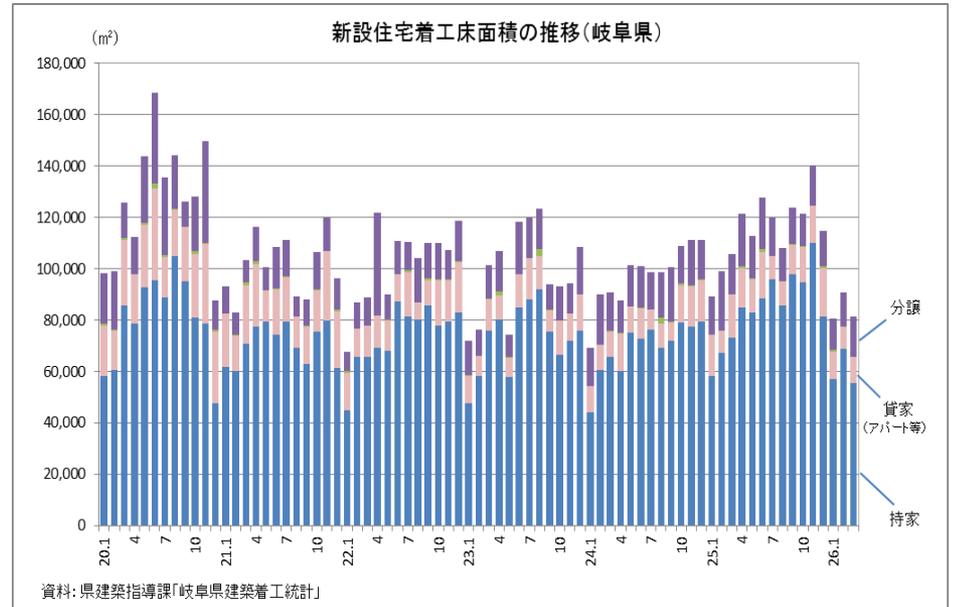
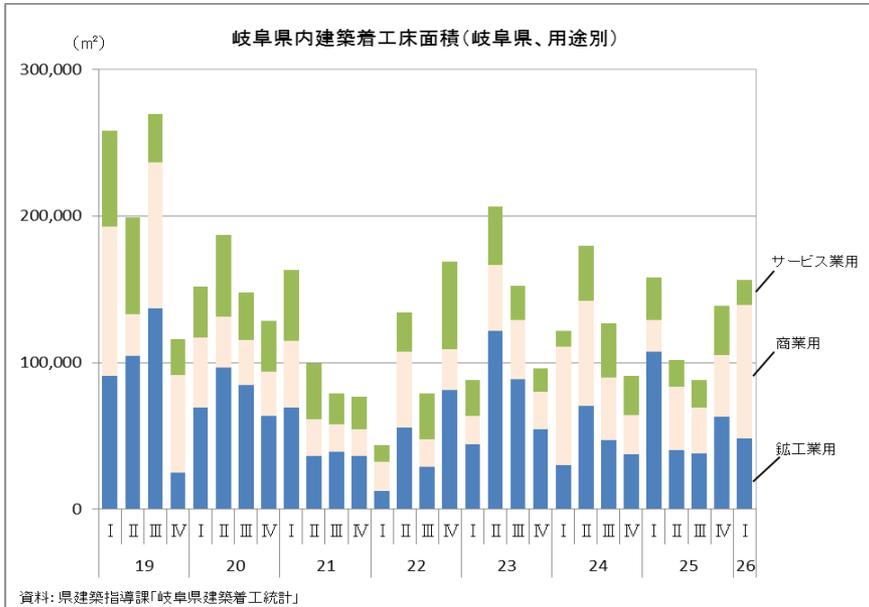
現場の動き

- ◆自動車関連が比較的好調のため、工具類の生産が活況を呈し始めており、これに伴う工具関連の工作機械の引き合いは持ち直しの傾向が見られ始めてきている。一方、電子・精密金型関連ユーザーの設備投資の引き合いはまだみだである。(生産用機械)
- ◆電動パワステ用部品加工ラインの3ライン目の設備立ち上げが完了し、順次加工を開始した。(はん用機械)
- ◆設備投資が多少多くなってきたという感触はあるが、急激な変化は認められない。(金融機関)

住宅・建築投資

○26年1-3月期の建築着工は、商業用で大きく増加したものの、鉱工業用、サービス業用での減少により、全体では前年同期比0.8%減となった。

○3月の住宅着工は、持ち家、貸家が大きく減少したことにより、全体では前年同月比22.5%減と3か月連続の減少となった。



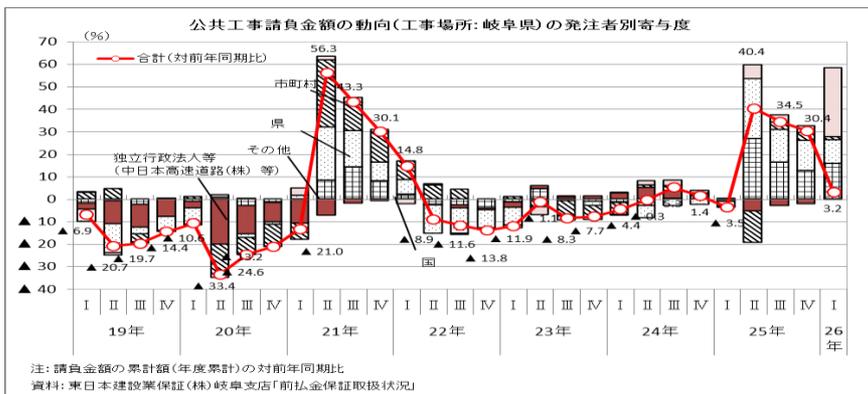
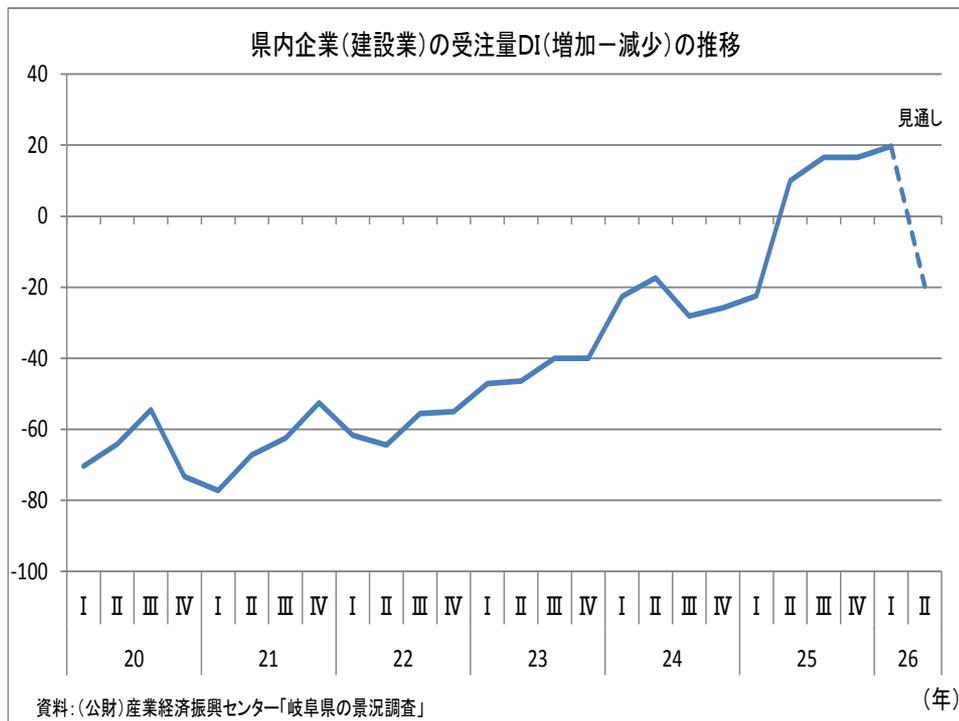
現場の動き

- ◆消費増税前の駆け込みによる特需は12月末で終息し、1~4月までは通常の受注量に落ち着いている。
- ◆住宅契約は4月に入り、球数として少なくなっているが、大型物件の動きが出てきている。(以上、住宅建設)
- ◆4月は原木の出荷量が若干少ない感じであった(国産材市場)
- ◆ヒノキ原木の流通としては、生産量が増加傾向である。一方、土台用などの県外からの強かった需要や、岐阜市内の大型公共施設への納材が一服したことなどにより不足感が弱まった。これに伴い、価格は3月より下落した。(森林組合連合会)

公共工事

○25年度内に県内で実施された公共工事請負金額は2,134億円と回復。

○26年1-3月期の公共工事請負金額は、国、県、市町村からの発注が増加したため、対前年同期比30.6%増と4期連続で前年同期の水準を上回った。



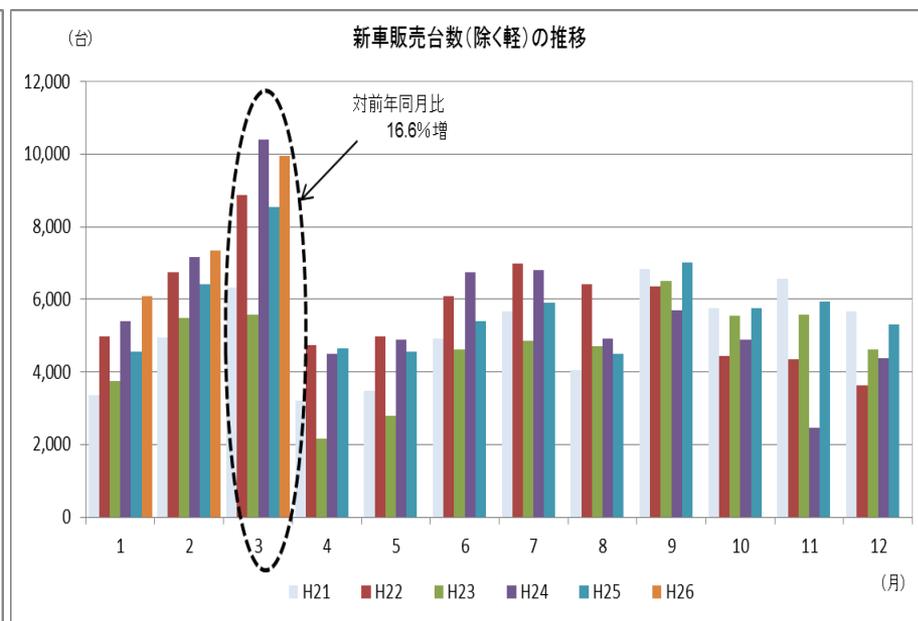
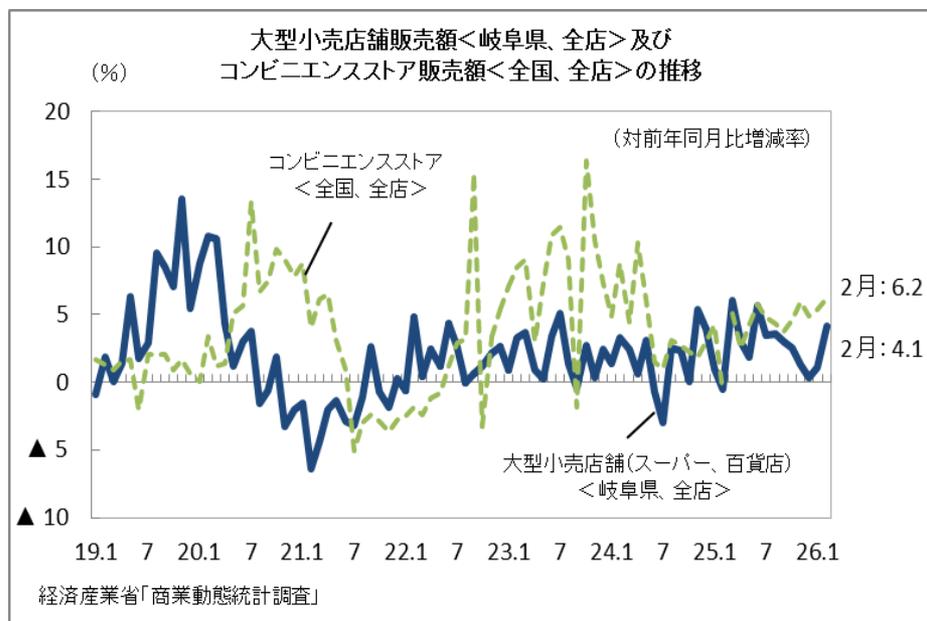
現場の動き

◆4月の消費税引き上げ以降は、国、県における補正案件の受発注量としては、昨年度並みで手持ち工事量としては多くはない。また、民間工事においても、工事規模の大小問わず、手持ち工事量としてはやや少なめで消費税後は暫く、発注控えの感がある。(業界団体)

個人消費(流通・小売)

○2月の大型小売店販売額は、対前年同月比4.1%増と11ヶ月連続の増加となった。

○3月の自動車販売は前年同期比16.6%増と7ヶ月連続の増加となった。

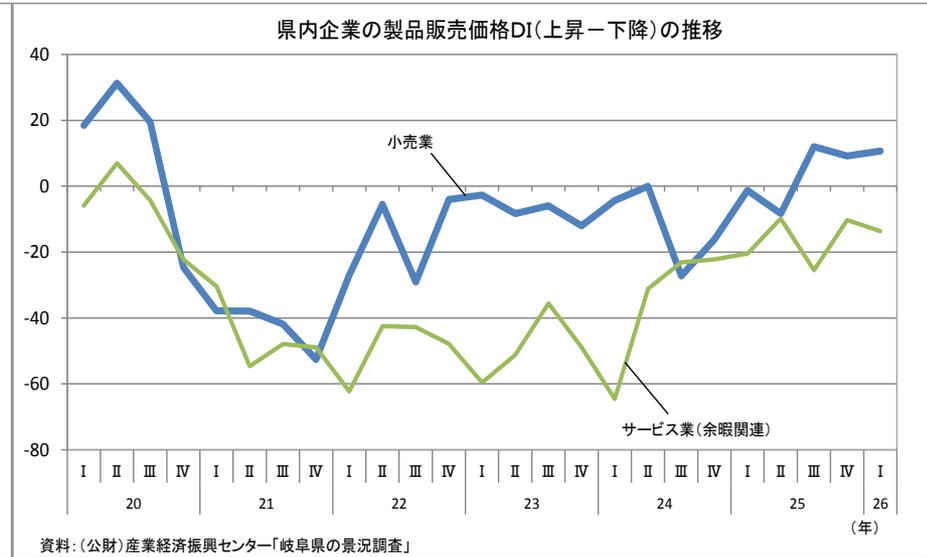
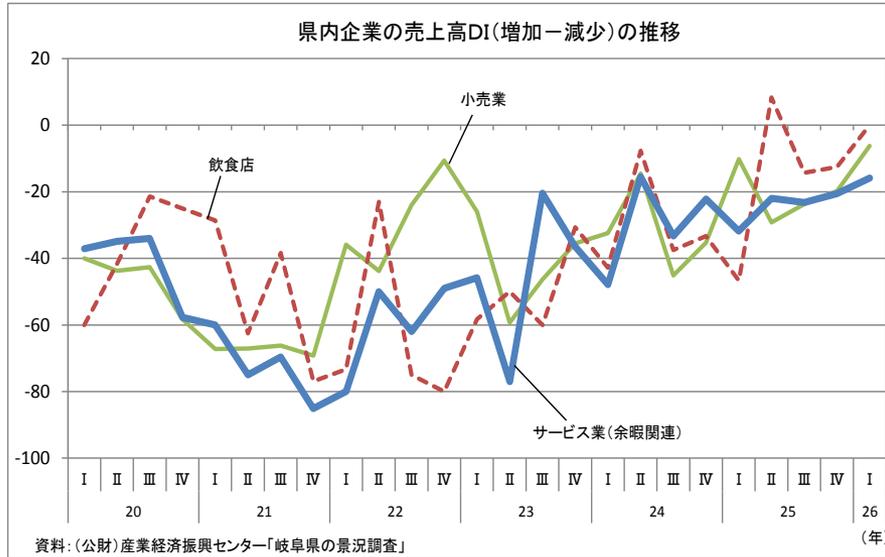


現場の動き

- ◆4月第1週に反動がきて大きく落ち込んだが、第2週目、第3週目と落ち込み幅は減少している。増税の影響により消費が特に落ち込んでいるものは、高額商品と日用雑貨品。
- ◆4月の来客数は、20日間で5千人減となっており、1日分の来客相当数が減っている。(以上、大型小売店)
- ◆2割強の落ち込み。ただし、負担軽減策があるためそこまで悲観していない。14年度は13車種投入と聞いている。(自動車)
- ◆売上は前年比約99%である。客数は、前年と比較すると若干減っている感じであるが、買い物単価は上がっているようである。(食品スーパー)
- ◆高額商品は消費増税の反動もあり落ち込んでいるが、全体的にはそれほど落ちていない。(スポーツ用品)
- ◆白物家電を中心に売上が落ち込み、前年比20%程度減少した。(家電)

個人消費(流通・小売)－2

○平成26年第 I 四半期の小売業については売上高、販売価格ともに増加。サービス業については売上高は増加したが、販売価格は減少。



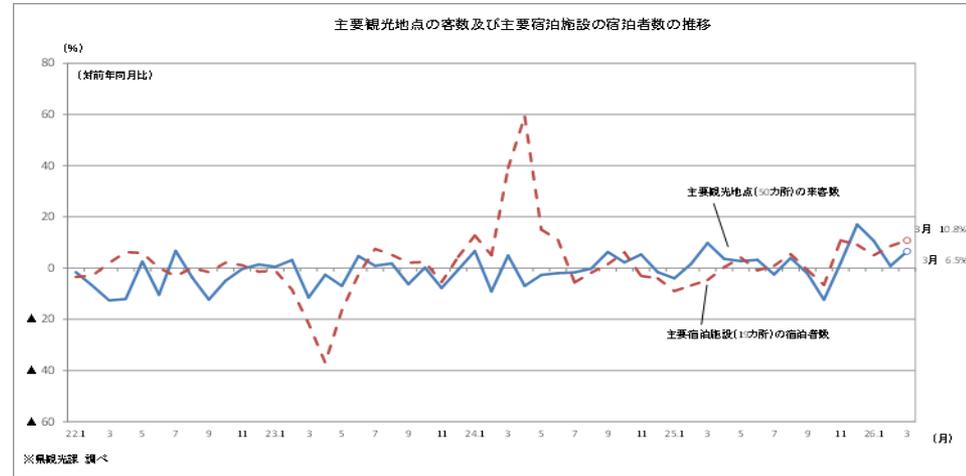
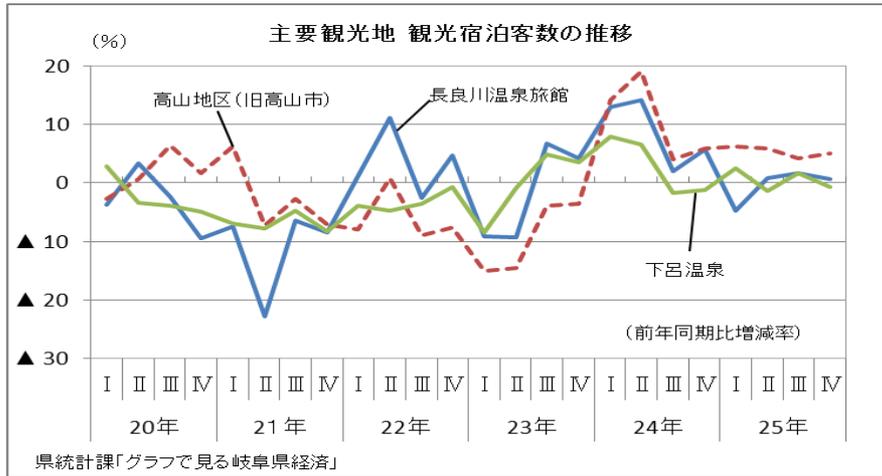
現場の動き

- ◆街を歩く人通りに変化はなく、消費増税の影響は少ない。
- ◆4月の売上は、婦人服が前年同月比100%、メガネ店が同100%、飲食店が100%。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆3月末から舟下りが始まったこと、桜見物により、商店街の人通りは多い。
- ◆4月の売上は、ブティックが前年同月比90%、和菓子店が同108%。(以上、大垣市商店街)
- ◆春の高山祭が開催され、外国人観光客が多く見られた。ただし、平日だったので昨年より国内の観光客が少なかった。
- ◆4月の売上は、お土産・雑貨店が前年同月比微増、衣料品店は同100%。(以上、高山市商店街)
- ◆4月の売上は、酒類が前年同月比100%、子ども服は微減。(多治見市商店街)
- ◆物販は、衣料を除く既存店ベースで売上は微増、レジ客数は微減となった。消費増税の影響はさほどないと思われる。
- ◆飲食は、売上、レジ客数ともに前年同月比増。(以上、アクティブG)
- ◆増税前と比べ客足は落ちている。(コンビニ)
- ◆貨物量は3月よりは減少したが、前年同月比よりは増加している。(運輸業)

観光

○平成25年第Ⅳ四半期の宿泊客数は、長良川温泉旅館が前年同月比0.6%、高山地区(旧高山市)が5.0%と増加したが、下呂温泉は0.7%減少した。

○主要観光地における3月の観光客数は、前年同月比6.5%増と5ヶ月連続で前年を上回った。また、主要宿泊施設における宿泊者数は同10.8%増と5ヶ月連続で前年を上回った。

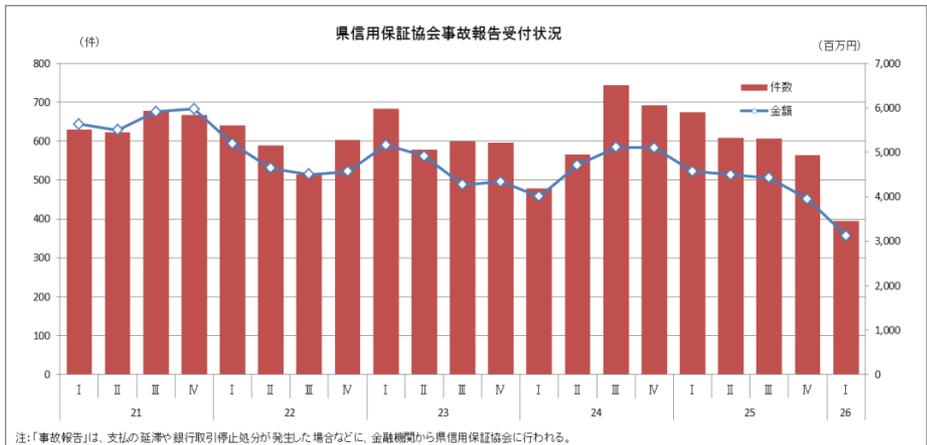
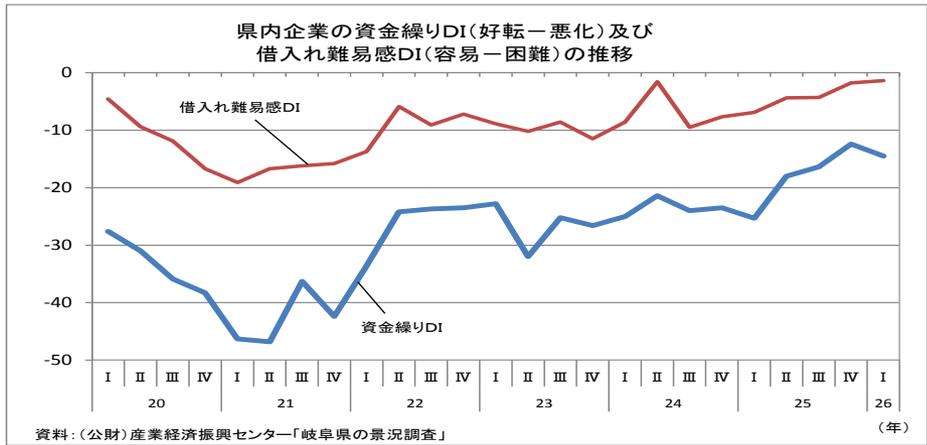
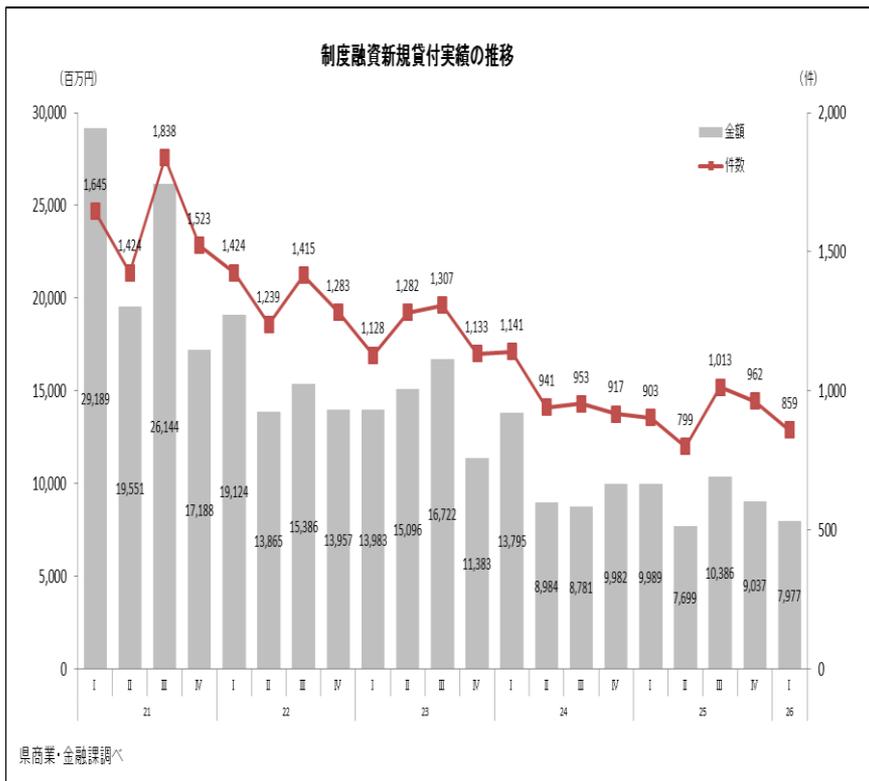


現場の動き

- ◆施設によってバラつきはあるものの、宿泊客数は総じて前年をやや上回る模様。また、ゴールデンウィーク期間中は後半に予約が集中。インバウンドは台湾やアセアン諸国の予約が引き続き好調。(宿泊施設の総括)
- ◆インバウンドは、4~6月にかけて、アルペンルートをコースに組み込んだグループ旅行がとても多い。
- ◆GWは5/3~4は既に満室だが、それ以外は空きがある。(以上、岐阜市内の宿泊施設)
- ◆4~5月は全て個人客の予約が入っており、特に5/3~4に予約が集中。(美濃加茂市内の宿泊施設)
- ◆GWは4/27~30は不調だが、5/2~4は好調。◆5/3~5を除き値下げしている。
- ◆インバウンドは好調を維持しており、バスが不足することもある。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆GWの前半は日並びの悪さもあり不調だが、5/3~5に予約、問い合わせが集中。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆タイ、台湾、ベトナム、インドネシアが好調。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆台湾、タイの宿泊予約が激増し、国内の減少を補っている。(奥飛騨の宿泊施設)

資金繰り

- 新規融資実績は平成21年秋口から沈静化が続いていたが、下げ止まりの兆しを感じる。
- 資金繰りについては回復基調に一服感があるが、借入難易度は緩やかに改善している。

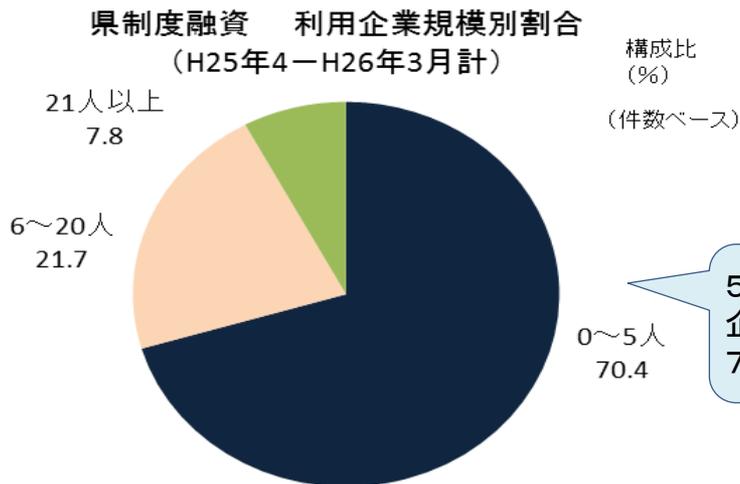
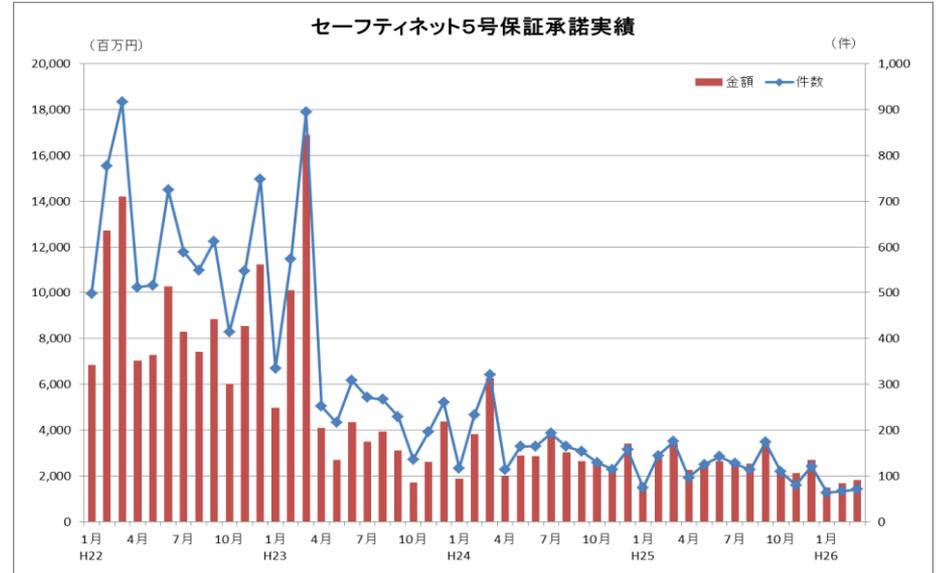
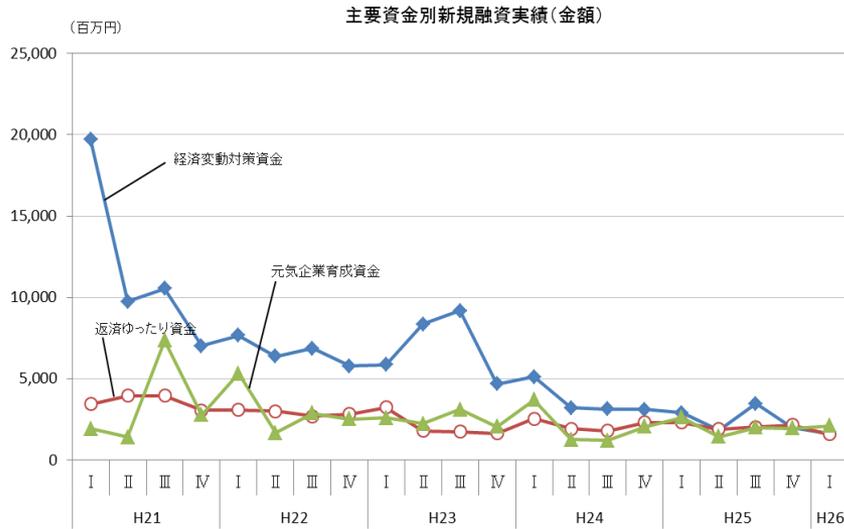


現場の動き

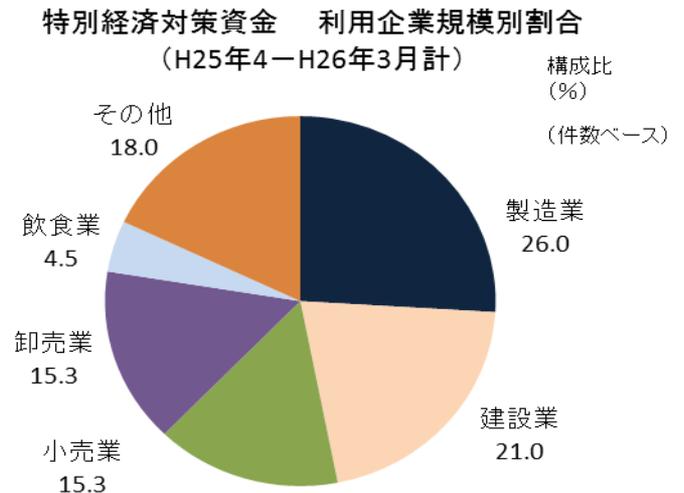
- ◆資金需要は、横ばい。
- ◆駆け込み需要は減り、3月になって落ち着いた。(以上、金融機関)

資金繰り-2

- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。



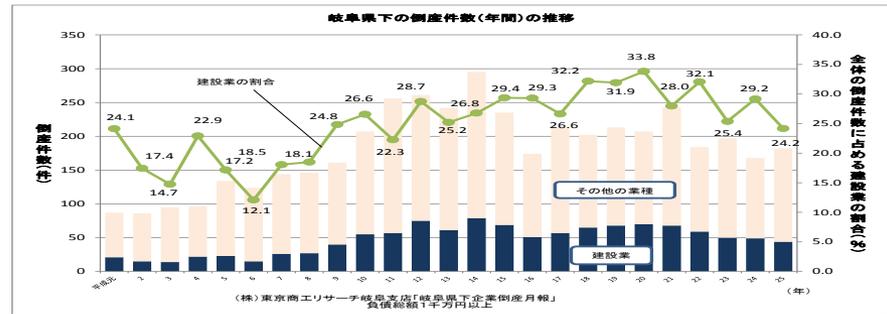
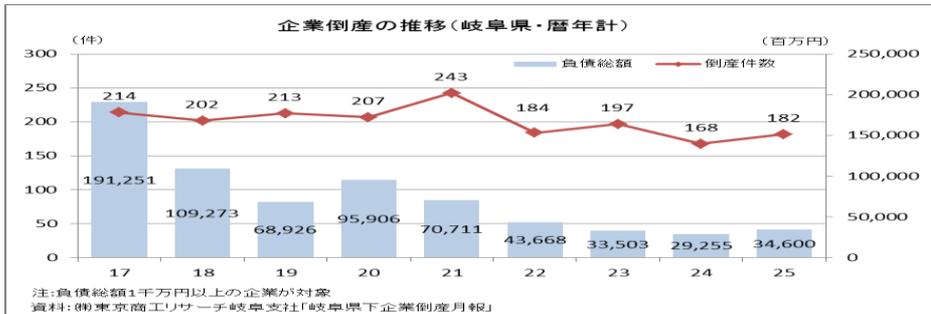
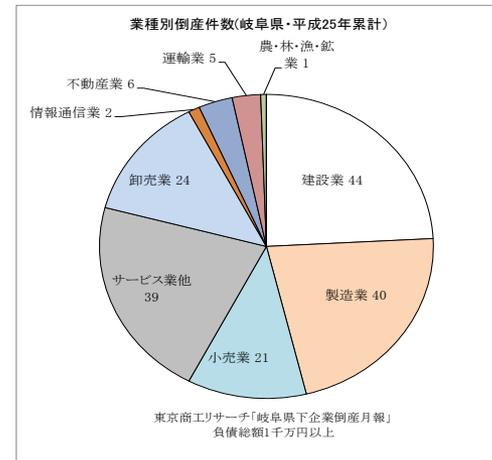
5名以下の零細企業の利用が7割を占める



倒産

- 平成26年2月の倒産件数は前年同月比14件増、前月比14件増の29件となった。
- 平成25年の倒産件数は182件となり、前年から14件増加。負債総額は346億円で2年ぶりに増加に転じた。

- 業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



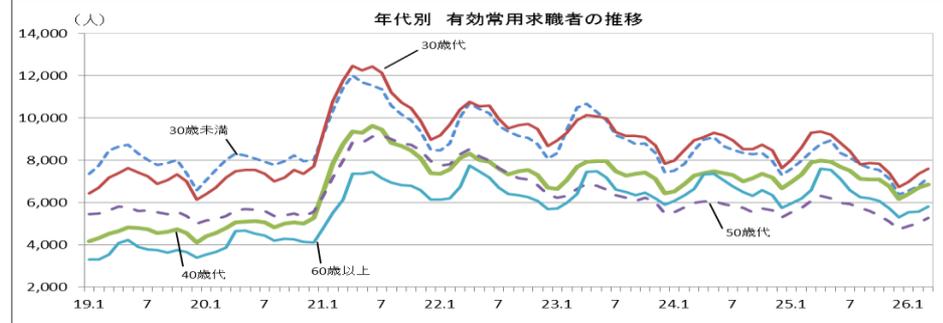
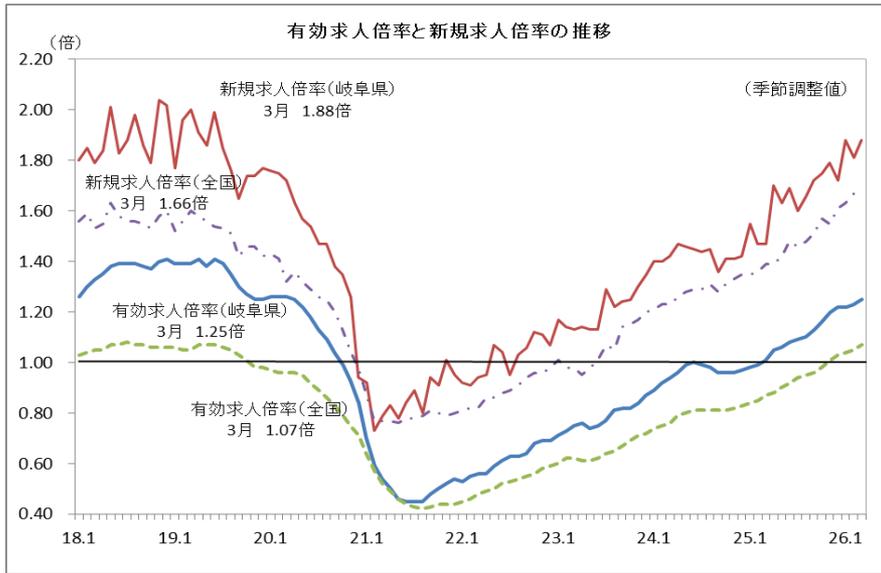
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆平成26年3月の県内倒産件数は29件、負債総額は56億200万円となった。倒産件数は前年同月比14件、前月比14件と大幅な増加。負債総額は前年同月比377.3%増、前月比242.6%増加となった。
- ◆消費増税の駆け込み需要の反動による消費の冷え込みが予想されていることに加えて、円安の影響による原材料価格の上昇が続いており、価格転嫁に寄与できない中小零細企業が増加して収益環境は厳しくなっている。
- ◆今後夏以降には経営改善の遅れた企業を中心として、穏やかに増加に転じる可能性は否定できない。

雇用

○3月の有効求人倍率は1.25倍と前月より0.02ポイント上昇。また、新規求人倍率は1.88倍と前月より0.07ポイント上昇。

○3月の雇用保険受給者人員は6,027人と前年同月と比べて24.2%減と9ヶ月連続で減少。

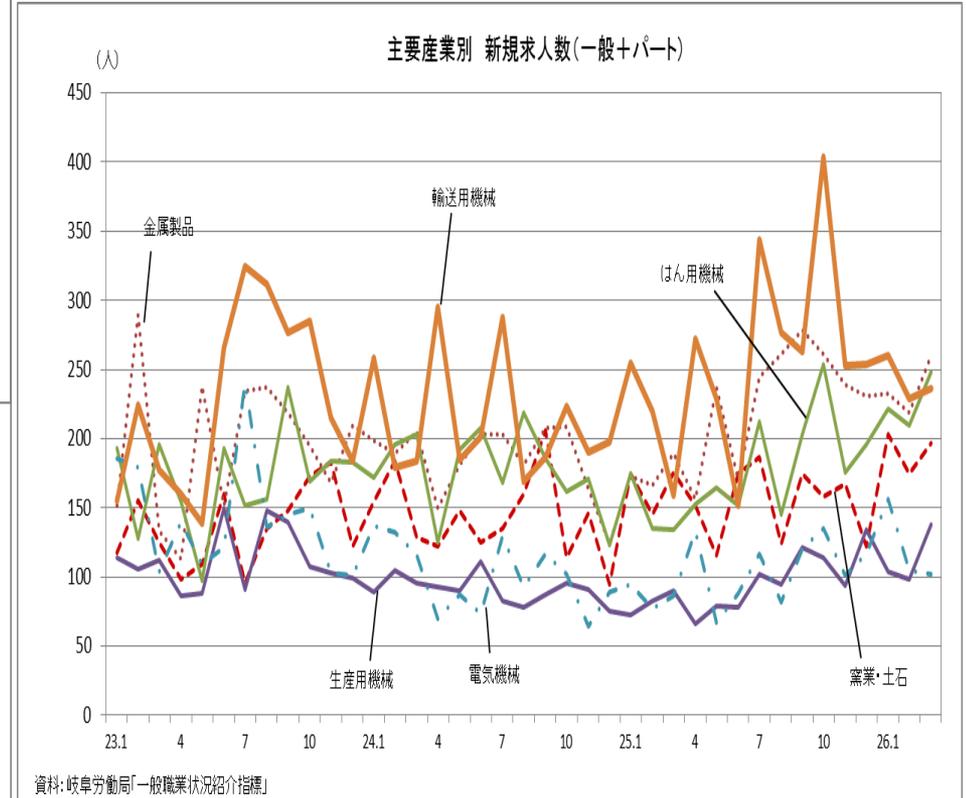
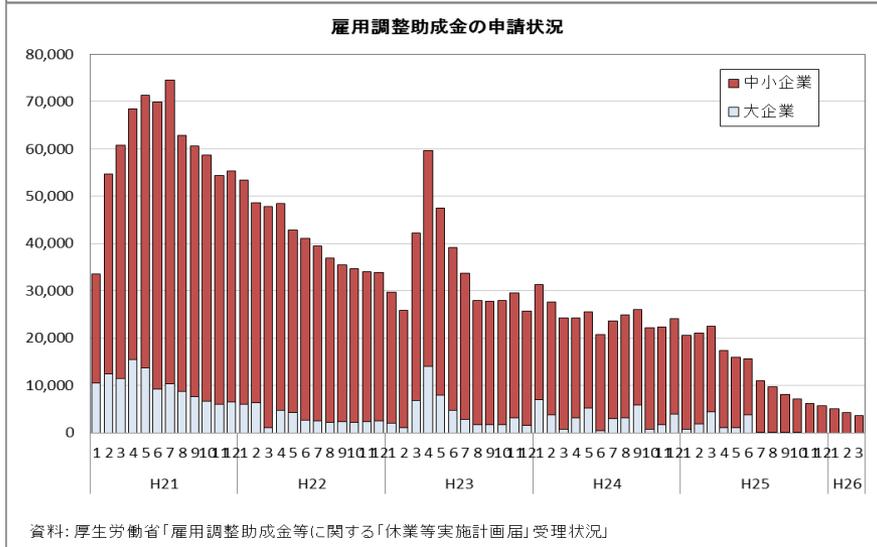
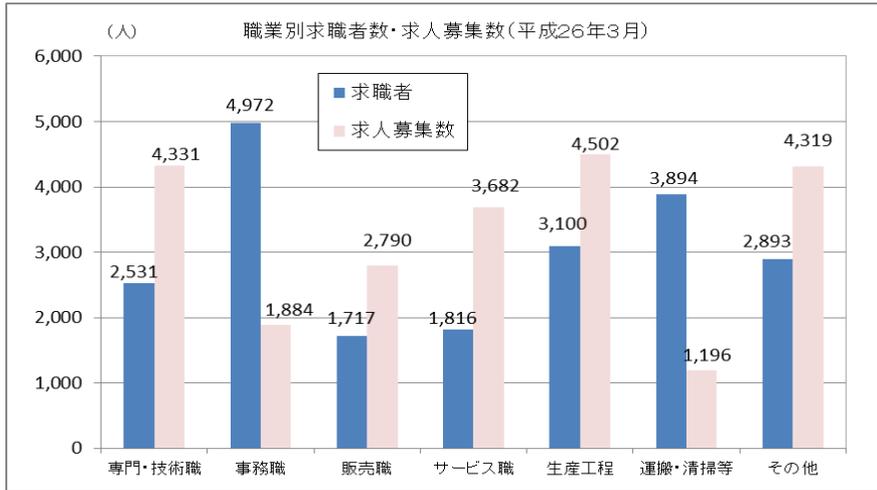


現場の動き

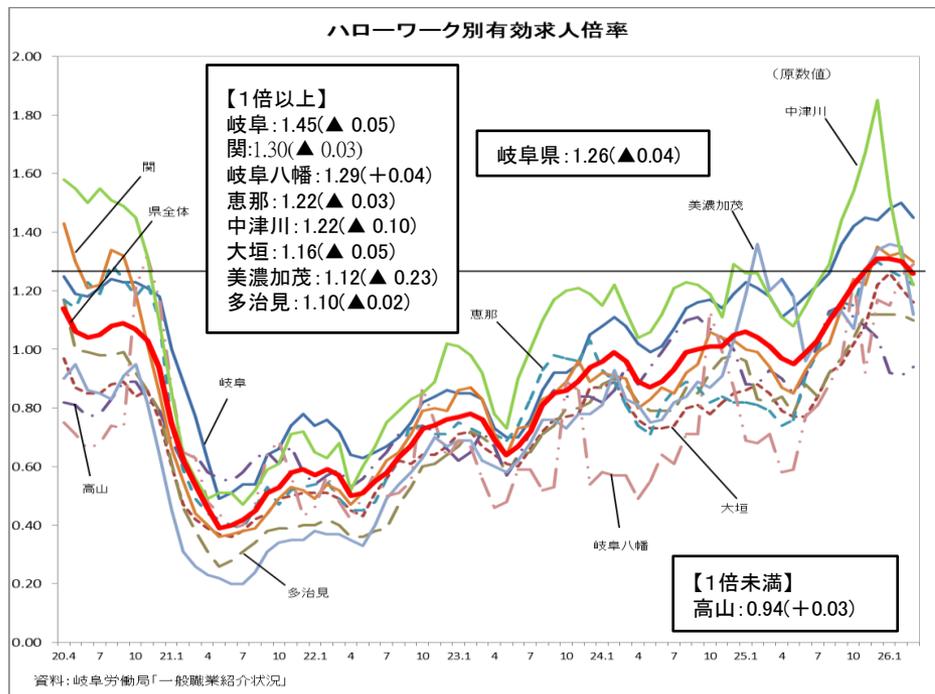
- ◆パート社員の応募数が激減。基準賃金の底上げを5月支払分より実施するが、応募数は依然増えていない。(食品製造)
- ◆5月も横ばいの予測で、非正規従業員の手配を継続中。
- ◆ポリテクセンター岐阜からの紹介を受け、面談も行っている。単純な作業員でなく技術のある人を採用したい。引き続きハローワークに求人を出している。(以上、輸送用機械)
- ◆求職者はあるが、なかなか良い人材が見つからないので人手不足は解消していない(生産用機械)
- ◆4月に13名を採用し、現在も中途採用の募集を行っているが、募集しても人が集まらない。(金属製品)
- ◆4月に正社員8名、5月にパート3名採用、今後も増強予定あり。技術職が依然として確保できない。(その他)
- ◆市場人材不足は進んでおり、新卒・第2新卒での派遣登録も多くなってきており、求職と求人とのマッチングが厳しい状況。
- ◆年末年始に多かった期間限定・産休代替に比べ、欠員補充(長期運用)や増員の依頼が増加。(以上、人材派遣会社)

雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい状況が続いている。
- 新規求人は電気機械を除く主な産業すべてで増加した。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したが現在は減少。



雇 用(地域別)



<ハローワーク岐阜>

- ◆ 求人者数は横ばいだが、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数は増加。

<ハローワーク大垣>

- ◆ 求人者数は減少しているが、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆ 求人者数は減少しているが、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに横ばい。
- ◆ 雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク多治見>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数は増加。

<ハローワーク恵那>

- ◆ 求人者数は減少しているが、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数は増加。

<窓口の様子>

- ◆ 美濃加茂と中津川を除き、混雑している。

<ハローワーク中津川>

- ◆ 求人者数は増加しているが、求職者数は減少。
- ◆ 雇用保険の受給者数は減少。

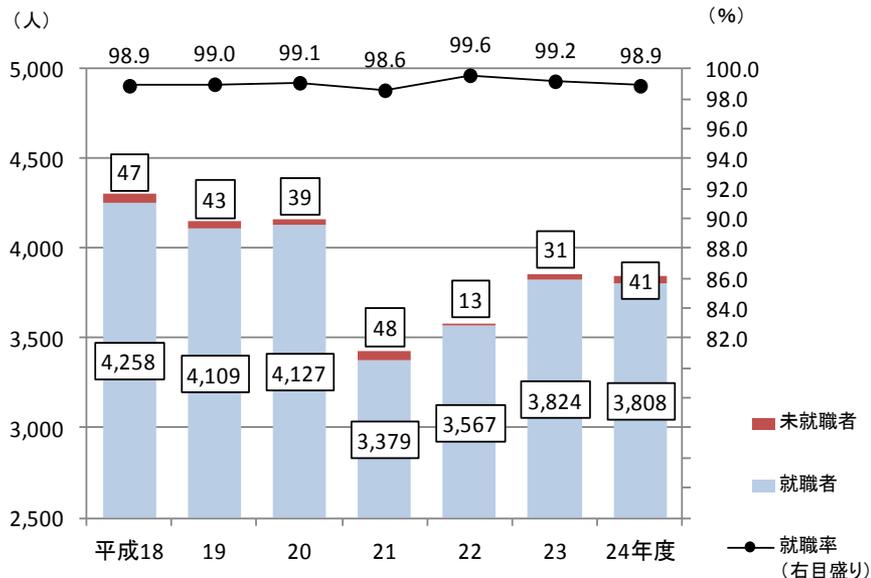
<ハローワーク高山>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は増加。

雇 用(高校新卒者の就職)

○高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。

新規学校卒業者の就職状況(高校卒業者)



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

現場の動き(求人状況)

<ハローワーク岐阜、大垣、高山、関、美濃加茂、中津川>

◆高校卒業予定者の求人が増加。

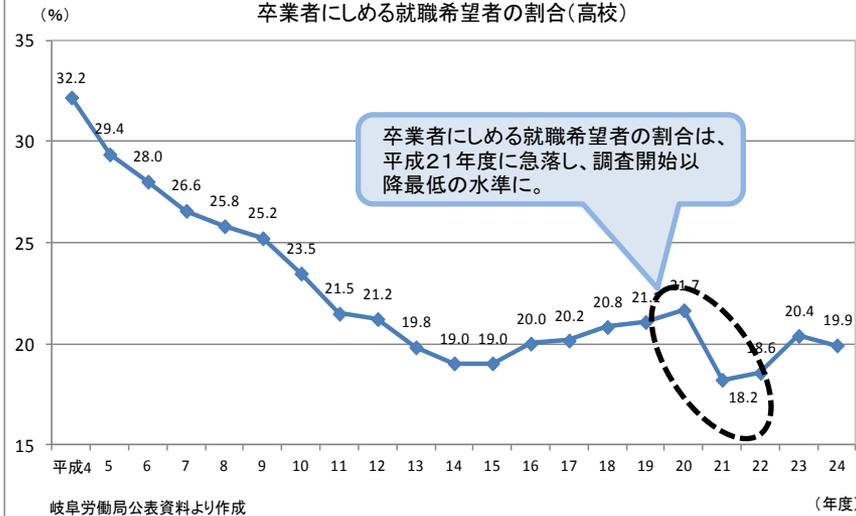
<ハローワーク多治見>

◆高校卒業予定者の求人は横ばい。

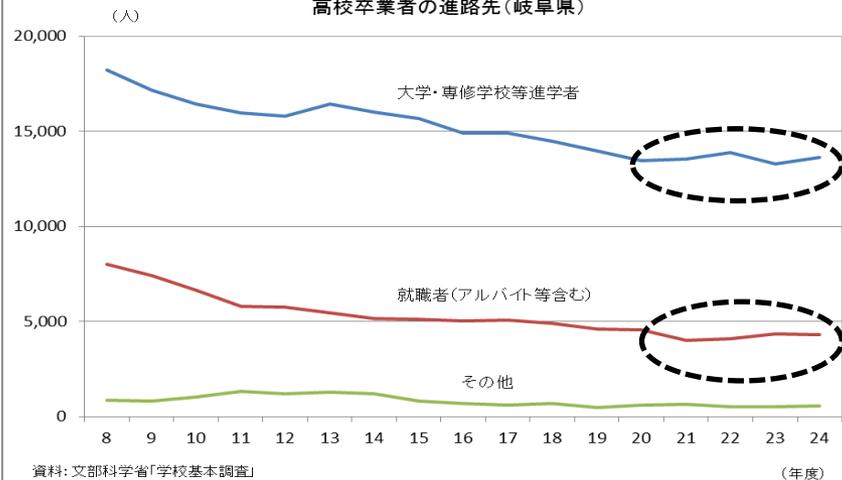
<ハローワーク恵那>

◆高校卒業予定者の求人が減少。

卒業者にしめる就職希望者の割合(高校)



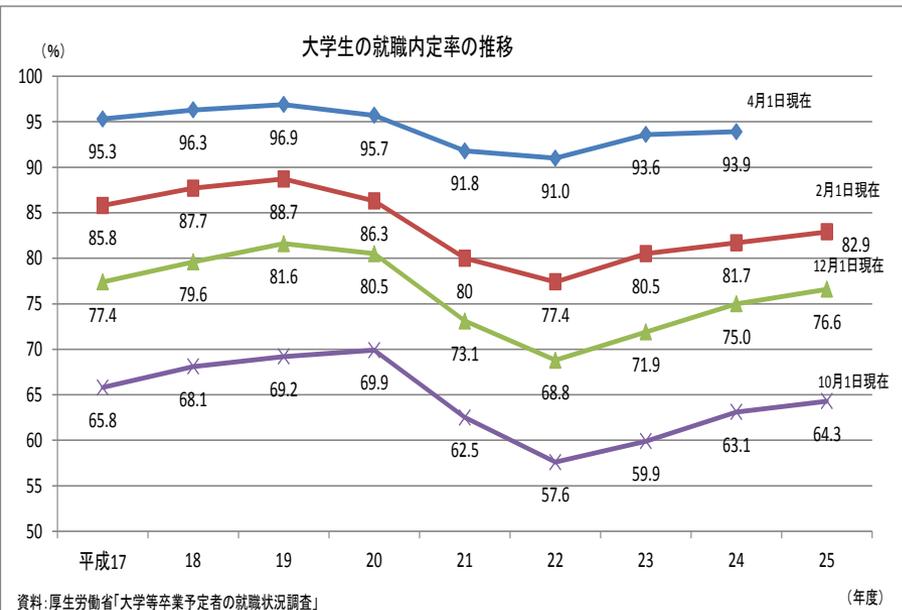
高校卒業者の進路先(岐阜県)



資料: 文部科学省「学校基本調査」

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

- 平成24年度の大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。
- 平成25年度の卒業予定者については、前年度同期より内定率が上昇傾向。



現場の動き

【岐阜県内の主な大学】

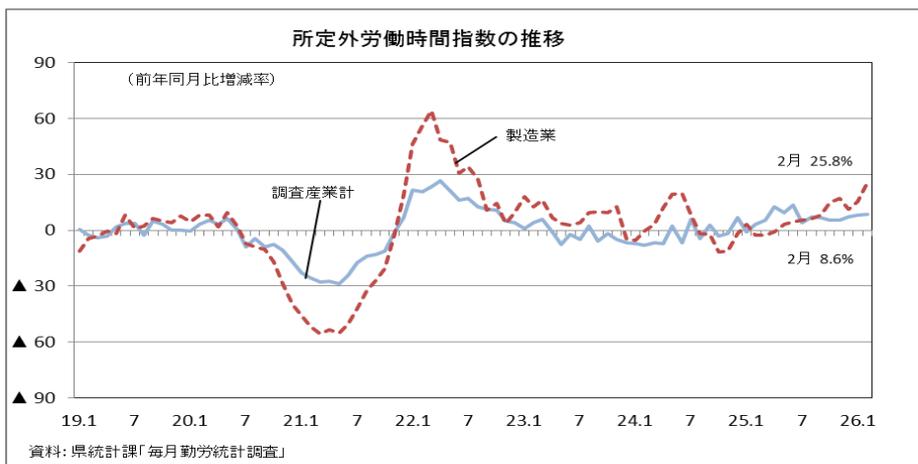
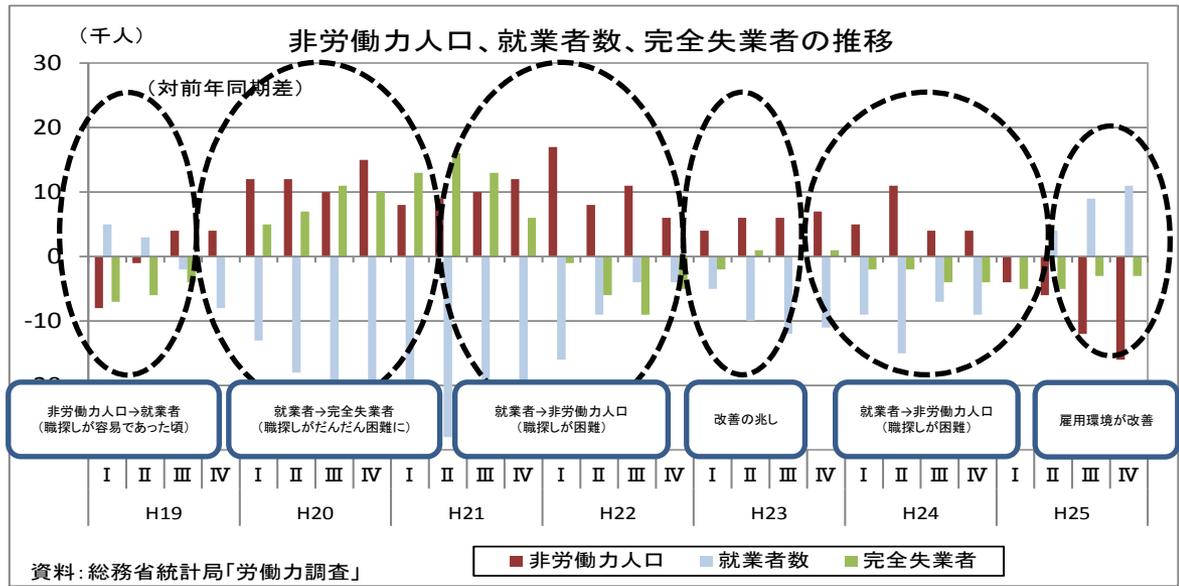
- ・2014年卒の4月末の内定率で学卒・院卒を含めて90%以上で推移。
- ・2014年卒の内定状況はすべての学部で90%以上。昨年並みか若干の増加。
- ・2014年卒の内定状況として約85%(学生報告ベース・就職希望学生数ベースでは96%)。

【愛知県内の主な大学】

- ・2014年卒の内定状況は3月末で約96.2%(前年同時期94.9%)と昨年より内定率UP。
- ・2014年卒の内定状況は3月末で約97%(就職希望学生ベース)。
- ・2014年卒の内定状況は、4月1日で約98%(就職希望学生ベース)。

雇用(完全失業率)

- 平成25年第Ⅳ四半期の完全失業率は2.8%と前期比で0.3ポイント改善。
- 平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成23年以降に再び厳しい状況となったが、平成25年第Ⅱ四半期以降では雇用環境が改善している。



< 経済・雇用の現状（総括） >

- 製造業全体では、輸入原料の高騰によるコスト高が続いているが、輸送用機械関連を中心に受注や生産は好調を維持している。
- 直近の円安の動きについては、輸出を主とする企業の売上げが増加している一方で、原材料価格及び燃料価格の上昇が続き、製造コストを押し上げている。しかし、販売価格への転嫁が進んでいない企業が多く利益を圧迫している。
- 地場産業は、木工では住宅着工増により好調な状況が続いているが、他の業種については依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売について、消費増税の駆け込み需要の反動が見られるが、大型店では保蔵可能な食料品・日用品、生活雑貨や化粧品等を除き、客足、売上とも回復基調にあり、想定範囲内にとどまっている。家電については、白物家電を中心に売上が大きく減少した。
- 観光は、施設によってバラつきはあるものの、宿泊客数は総じて前年をやや上回る模様。GWは後半に予約が集中。インバウンドは台湾やアセアンが引き続き好調。
- 雇用面では、特に、製造業で、生産量の増加に伴い人材の確保に努める企業が多く見受けられる。派遣会社に対しては企業からの派遣要望が高い状況が続いている。
- 企業の資金繰りは、横ばい状態が続いており、新規借入れ需要は依然低調だが下げ止まりの兆しが見られる。